



令和4年度「特色ある学校づくり対策事業」

佐世保市立船越小学校

所在地 佐世保市船越町759番地

校長 伊藤 裕子

児童数 142名

学級数 8学級（令和4年5月1日現在）



学校教育目標

ふるさを愛し、進んで学び行動する、心豊かな児童の育成

～夢実現に向けて～

めざす児童像

やさしい子 考える子 たくましい子

1 目 的

本校学校教育目標「ふるさを愛し、進んで学び行動する、心豊かな児童の育成」の中のめざす児童像「やさしい子・考える子・たくましい子」の具現化を図るため、具体的方策に沿った教育実践活動を推進する。

- (1) 確かな学力を付けるため、標準学力調査を前・後期2回実施し、その結果を分析し、学力向上に向けた授業改善に活用するとともに、本校の取り組んできた学力向上対策の効果を検証し、次年度へつなげる。
- (2) 「総合的な学習の時間」における福祉・人権教育、平和教育、自然体験などを中心に、「学びに向かう力、人間性」を育む。
- (3) 花や野菜の栽培、さつまいもや大豆づくりなどの体験活動を中心に、地域の特性を生かし、学年に応じた地域資源の活用を図る。

2 実践事例

(1) 確かな学力を付けるための取組

標準学力調査による実態の把握と活用

今年度も2回に分けて学力調査を実施した。その目的は2回の調査結果を比較することにより、各学年及び個人の伸びと課題等の傾向を分析し、子供たちの学習指導に生かし、学力の向上を目指すためである。

具体的には、5月の調査では、2年生から4年生まで標準学力調査により、国語科と算数科における実態を把握した。市や県の学力調査、全国学力状況調査の結果も含め、児童の学力の実態を把握し、改善策について校内研修を中心に協議を進めた。さらに児童の学力や改善策について、保護者に周知し、学力向上への協力を求めた。2回目の検査では、実践してきたことが効果的であったのか検証することができ、次年度へ向けての課題を明らかにすることができた。生活リズムに留意しながら家庭学習の質の改善する家庭も増えるなど、学校、家庭の両面から学力向上において連携することができた。

このことにより、基礎学力の向上と主体的な学びの環境づくりなどの次年度への課題を把握し、個に応じた指導の手がかりとすることができた。



(2) 総合的な学習の時間の取組

① 第3学年 「福祉体験をしよう」

3年生は、総合的な学習の時間において、「福祉」をテーマに探求的な学習をすすめてきた。身近な高齢者や様々なハンディキャップをもつ人に目を向け、どのような苦労があり、自分たちができることを見つけることを目標に体験的な学習を進めることができた。

アイマスク体験や車いす体験、高齢者体験など、社会福祉協議会の方に全面的に協力いただき、次のような成果が得られた。

- それぞれの方の社会への対応の仕方や思いに身をもって触れることができた。
- 高齢者や障がい者のことを、専門の方から学ぶことにより、体験的に理解し、お互いが尊重しあっ



て、生活をしていかななくてはならないという意識をもち、インクルーシブの考え方を自然と身に付けることができた。

② 第4～6学年「お茶の体験学習」

総合的な学習の時間を利用し、地域のお花ボランティアの方に来校していただき、茶道の体験学習を行った。

4年生以上の学年で一回ずつ実施し、お茶の作法を丁寧に指導していただき、児童は作法はもとより、和の雰囲気を味わうことができた。

和やかな中にも、張り詰めた空気の中で取り組むことができた。



このような伝統文化体験は、子供たちが日本古来の伝統の奥深さを感じ、これからも受け継いでいこうとする意識を高めることができる、とても大切な活動であることが分かった。

③ 第5学年「キャリア教育」気象・天体の専門家に学ぼう

「気象予報士に学ぼう」

2名の気象予報士を呼び、5年生に向けてキャリア教育を実施した。なぜ、気象予報士になったか、夢の実現にはどのような努力が必要かなど、事前に児童の課題を伝えておいたことで、総合的な学習のねらいにあった講演を行っていただいた。



「宇宙の美しさ」を体験しよう

東京のプラネタリウムにお勤めの天体の専門家を招聘し、子供たちに宇宙の魅力や天体の観察の仕方を学ぶことができた。天体に高い関心を示す児童が、天体についてだけでなく、職業についても、より深く知ることができた活動となった。



(3)地域の特性を生かした取組

① 「野菜を育てよう」(春野菜・夏野菜)

地域の方から菜園を借り、1年生から3年生、支援学級まで、豆やオクラなどの春野菜からかぶなどの冬野菜までを計画的に栽培することができた。

特に、オクラは、花から結実までの生長過程を観察させたり、収穫期には、毎日収穫できたりすることで、子供自ら関心をもって栽培園に通ってお世話することができる、よい活動内容であった。また、カマキリなどの昆虫も畑で多く見られ、理科や他の教科でも畑での栽培活動との関連を図ることができた。



②「野菜を育てよう」(冬野菜)

サツマイモ栽培は、地域の管理によって今年も鳥獣の被害にも遭わず、大収穫となった。1, 2年生児童は生活科の中で料理して味わったり、家に持ち帰って思い思いの料理にしたりして秋の収穫を堪能することができた。



冬野菜づくりでは、子供たちも寒さにも負けず、元気に外へ出て、観察や世話をすることができた。また、国語科の「大きなかぶ」を思い出し、教科書にある、かぶを抜く描写の再現を試みる児童もあり、他教科との関連を図ることができた。



このように、地域の方の協力を得ながら、栽培体験を実施してきた。

地域の方がもっている知識や技能にふれ、地域の力強さを感じることができた。併せて、畑の管理や世話をすることを通して、収穫の喜びや働く人の苦労を感じると共に、いのちの大切さも学習することができた。